赤城山南麓を横断する巨大用水路
Huge Irrigation Ditch Cross The Southern FootHills Of Mt.Akagi

史跡 女堀
Onnabori

上空より見た女堀（昭和54年撮影・前橋市飯土井町）かつては田畑の中に、一段くぼんだ帯状の区画が連綿と続いていた。

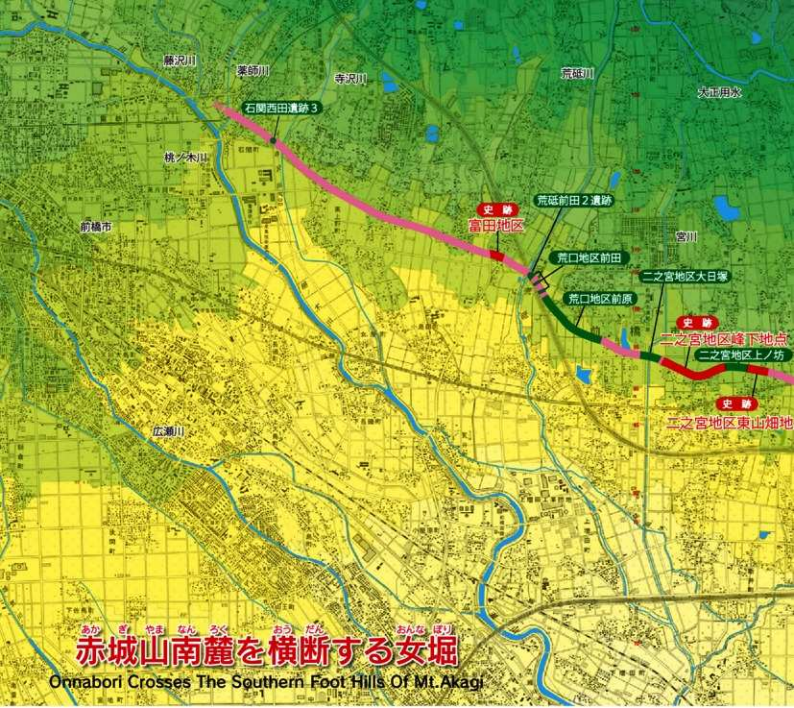


図2　女堀の史跡地点と調査地点

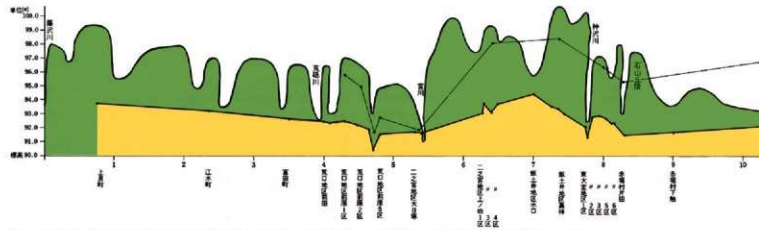


図3　女堀底面の勾配図　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1984『女堀-中世初期・農業用水址の発掘調査-』より

史跡地一覧

No.	市名	地区名	指定年月日	所在地
1	前橋市	富田地区	昭和58年10月27日	前橋市富田町７２０－１
2	前橋市	二之宮地区	昭和58年10月27日	前橋市二之宮町２９２・荒子町６４０－１
3	前橋市	飯土井地区	昭和58年10月27日	前橋市飯土井町５６０－８
4	前橋市	荒口前地区	昭和58年10月27日	前橋市東大室町１６４－２
5	前橋市	東大室地区	昭和58年10月27日	前橋市東大室町２１７
6	伊勢崎市	赤堀地区	昭和58年10月27日	伊勢崎市下触町２１７

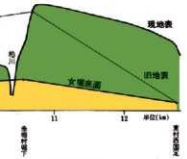
女堀は中世初頭の灌漑用水路として、全国的にも極めて巨大な記念物にもかかわらず、古文書にはその記録が一切残されていません。そのため誰がいつ、どのような目的で掘ったのか「謎」とされ、その名称から「女の人が一夜にして掘った」や「持統天皇や北条政子といった女性の権力者が掘った」などの伝説が伝えられてきました。

女堀は、今から約850年前の中世初頭に赤城山南麓の標高95mのラインに沿う形で約13㎞にわたって掘削されました。取水先は前橋市上泉町の桃ノ木川と藤沢川の合流点近くで送水先は伊勢崎市国定町（国定駅周辺）でした。その目的は豊富な利根川水系の水を伊勢崎市の早川流域まで送水し、この地域一帯を潤すために計画されました。しかし、工事は未完成のままで終わってしまいました。

昭和50年代までは田園風景のあちこちに女堀の掘削された堀跡をみることができましたが、残念なことに現在は、あまり残っていません。

現在、赤城山南麓には２本の用水路が存在します。かつて女堀が果たせなった灌漑用水路の目的を昭和になってから大正用水と群馬用水で実現しました。

ボーリング調査によると起点の標高は93.8m、終点は90.6mとなり、その勾配は3,700分の１です。このように僅かな高低差で通水が出来るように設計されていました。しかし、左の勾配図をみると二之宮地区から飯土井地区にかけての現地表が標高100mと他に比べて格段に高く、この地点の女堀底面は必要な深度まで掘削が進んでいません。このように、上流域に比べ下流域は10m近くのかなりきつい掘削深度を必要としました。未完成の要因の一つに下流域一帯が標高の高い場所であったことがあげられます。



発掘調査地一覧

No.	遺跡名	所在地
1	石関西田遺跡３	前橋市石関町
2	荒砥前田２遺跡	前橋市荒口町
3	荒口地区前田	前橋市荒口町
4	荒口地区前原	前橋市荒口町
5	二之宮地区大日塚	前橋市二之宮町
6	二之宮地区上ノ坊	前橋市二之宮町

No.	遺跡名	所在地
7	飯土井地区	前橋市飯土井町
8	前工団地区	前橋市飯土井町
9	東大室地区	前橋市東大室町
10	赤堀地区	伊勢崎市下触町
11	中畑地区	伊勢崎市下触町
12	川上地区	伊勢崎市下触町

女堀の謎をとく

Solving The Mystery Of Onnabori

図4　二之宮地区上ノ坊の発掘調査　前橋市二之宮町　西から

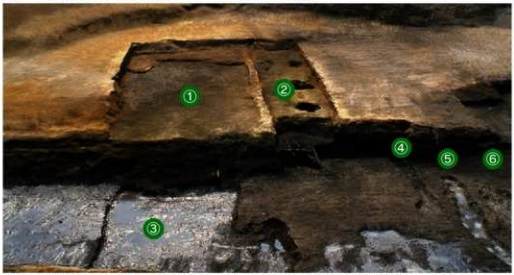


図5　大小の小間割　前橋市東大室地区　北から　①～⑥が小間割　②が小間割の標準サイズ（3×12m）

図6　小間割　前橋市東大室地区　西から　⑦～⑨が小間割

図7　通水溝がつく完成した工区　前橋市飯土井地区嘉祥　東から

図8　前橋市二之宮地区上ノ坊の女堀　東から　奥に柵がみえる

昭和54年（1979）から58年（1983）の5カ年にわたって実施された発掘調査によって、女堀の謎が解明されました。取入口は前橋市上泉町の桃ノ木川と藤沢川の合流点付近で、送水先は伊勢崎市国定町で全長12.75㎞を測ります。赤城山南麓の標高95mに等高線に沿うように設定され、堀幅15～30m、深さ3～4m、先の田畑一帯に必要な水を引き土地を潤す目的で、途中での分水のない終点に送水する水路であると結論づけられました。

女堀の開削目的は大間々扇状地地域の再開発で、農業用水を確保するために計画されました。発掘調査の結果、通水の痕跡が全くないことが解明され、その工事は未完成で終わったことも判明しました。また、未完成にもかかわらず全線にわたる長大な区間の開削工事が一斉に着手されたことも判明しました。

女堀を詳しく調べると、堀の幅や深さに、走行が良い違う箇所もありました。これは堀全体を工区に分けて工事した結果です。さらに工区内部を小間割に細分して工事を行った痕跡も確認でき、一つの工区内を幾つかの集団に分かれて作業したことが明らかになりました。

女堀はどう掘削されたか

How Did This Irrigation Ditch Dig Into The Ground?

図9　赤堀花しょうぶ園の盛土調査：伊勢崎市下触町　南から　何層にも積み重なった盛土のようす

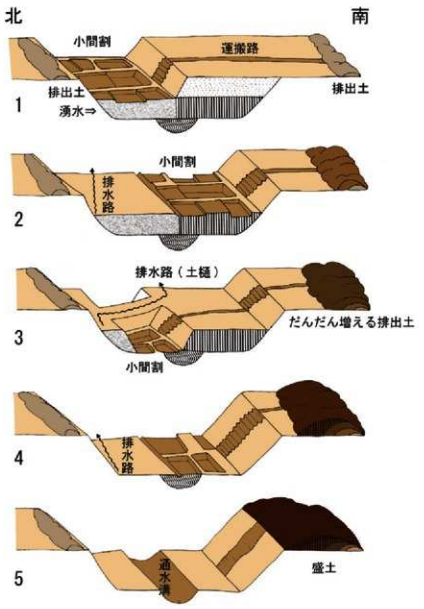
図10　東大室地区の女堀の発掘　西から　ここでは、南側の最終掘削が終了する前に工事が中断されている。溝内には北側から流入する水を排出明示）が数多くみられ、大人数での工事であったことが偲ばれる。なお、排出土の下からは畠の畝が現れ、搬出路は畠を潰してつけられている。

赤城山南麓は起伏に富んだ地形です。そのため通水面まで深い所では４ｍも掘られました。

１段目の掘削で出た土は南と北の両側に置かれます。２、３段目からは北側半分を掘削し、つぎに南側半分を掘削します。北を掘ってから南を掘るという掘削方法は、赤城山麓側からの湧水対策で、常に湧水側の北半分を低くしておいて、排水しながら掘削作業を行い、排出された土は南側に集中することになりました。排出された土は、１段目が最も奥に置かれ、２段目は中間に、最後の３段目は一番手前に置かれています。

東大室地区では、最後の南側３段目の掘削が終わらない状態で工事が中断されていました。これは、北側からの湧水や、河川から流入した水が多かったためです。赤城山南麓は豊かな地下水があるため、女堀の掘削工事では、その地下水脈を寸断することになります。そのために堀底に柵を作ったり、河川からの流入水を処理するための溝を掘ったりした苦労の跡が随所に残っていました。

する土樋と水路がみえる。右側には排出土の運搬路（白線で



1　最初に北側を掘削する　→　2　次に南側を掘削する　→　3　土樋が造られる　→　4　残土は南側に運ばれる　→　5　通水溝をつけて完成する。

図11　女堀掘削工程　平凡社1989『よみがえる中世５　浅間火山灰と中世の東国』より

女堀は誰が造ったか

Who Made Onnabori

1108年浅間山大噴火

The Eruption Of Mt.Asama In 1108

図12　小諸市からみた浅間山の噴火　昭和48年（1973）　南から

平安時代の末期、上野国は平将門の乱がおきるなど、律令国家の秩序は乱れていました。また嘉保２年（1095）に上野国では１カ年の調庸雑物（税）が免除になるほど、上野国は疲弊していました。それに追い討ちをかけるように浅間山の大噴火が嘉承３・天仁元年（1108）と大治３年（1128）の二度、県内全域に覆うようにありました。この噴火によって水田のほとんどが復旧されることなく放棄されており、上野国の荒廃を決定的にしたことがうかがえます。また、女堀を掘削し運んだ盛土の下にこの2つのテフラが見つかったことから女堀は火山災害の復旧で開始されたことが考えられます。

中央では白河上皇の院政が始まり、社会の動揺が様々な部分に及ぶ中、貴族や武士たちは経済的基盤を求めて荘園や公領の開発に目を向けていきます。浅間山噴火後の12世紀中頃には、全国的に荘園開発が進む大開発時代を迎え、再開発が一つの契機となり、荘園や御厨が次々と造られていきます。

女堀の終点は、伊勢崎市国定町西国定の独鈷田と呼ばれる、帯状の水田です。この伊勢崎市国定町周辺は、「平将門の乱」を鎮定したことで有名な俵藤太（藤原秀郷）の流れをくむ淵名氏が在地領主として、当時「淵名荘」と呼ばれた荘園を成立させていました。女堀の開

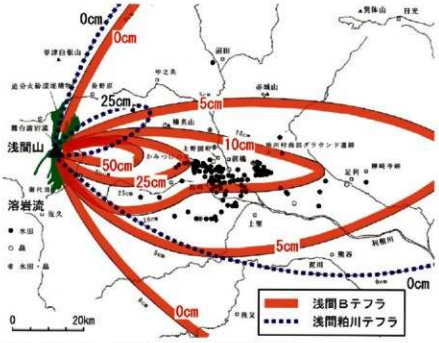


図13　浅間Bテフラと浅間粕川テフラの分布範囲
かみつけの里博物館　2004『1108浅間山噴火-中世への胎動-』より

女堀の開削
↑
浅間粕川テフラ
1128（大治3）年
源師時の日記「長秋記」による
↑
浅間Bテフラ
1108（嘉承3・天仁元）年
藤原宗忠の日記「中右記」による

図14　女堀の盛土の下に堆積した
浅間Bテフラと浅間粕川テフラ

削ルート周辺には、大胡郷や大室荘など、淵名氏と同じ秀郷の流れをくむ地方領主が経営する荘園が多く存在しています。

発掘成果からは、開削工事が一つの統一した意思の下に計画され、実行されたと考えられています。女堀の開削は赤城山南麓の秀郷流藤原氏を名乗る同族集団の共通の利害関係に基づく、壮大な共同プロジェクトとして行われた一大工事であったことがうかがえます。

また、淵名荘は、鳥羽上皇の正妻待賢門院璋子が大治５年（1130）に建立した仁和寺法金剛院の所領（御願寺領）です。いつから淵名荘が成立したか詳しいことは不明ですが、淵名氏が在地領主となって荘園を造り、そこには天皇家が関わっていたようです。

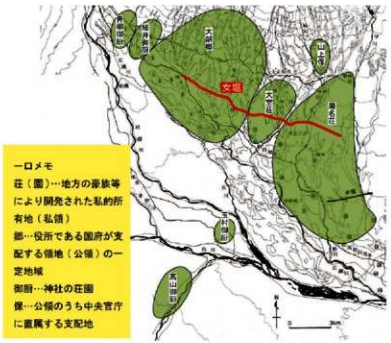


図15　赤城山南麓の地形と荘園・御厨・郷・保
平凡社　1989『よみがえる中世5　浅間火山灰と中世の東国』より

図16　鳥羽上皇の正妻待賢門院璋子
（1101年ー1145年）
法金剛院絵巣書より

女堀のその後

What happened to Onnabori after that?

図17　群馬用水　前橋市小坂子町　西から
群馬用水は、昭和39年（1964）に着工され昭和45年（1970）に完成しました。沼田市岩本町と昭和村川額の利根川から取水し、渋川市上白井で赤城幹線と榛名幹線に分水される灌漑用水路です。赤城幹線は標高280mの等高線に沿って渋川市赤城町津久田から桐生市新里町新川・みどり市大間々町鳴神原にある早川貯水池までの全長32.8kmの用水路です。

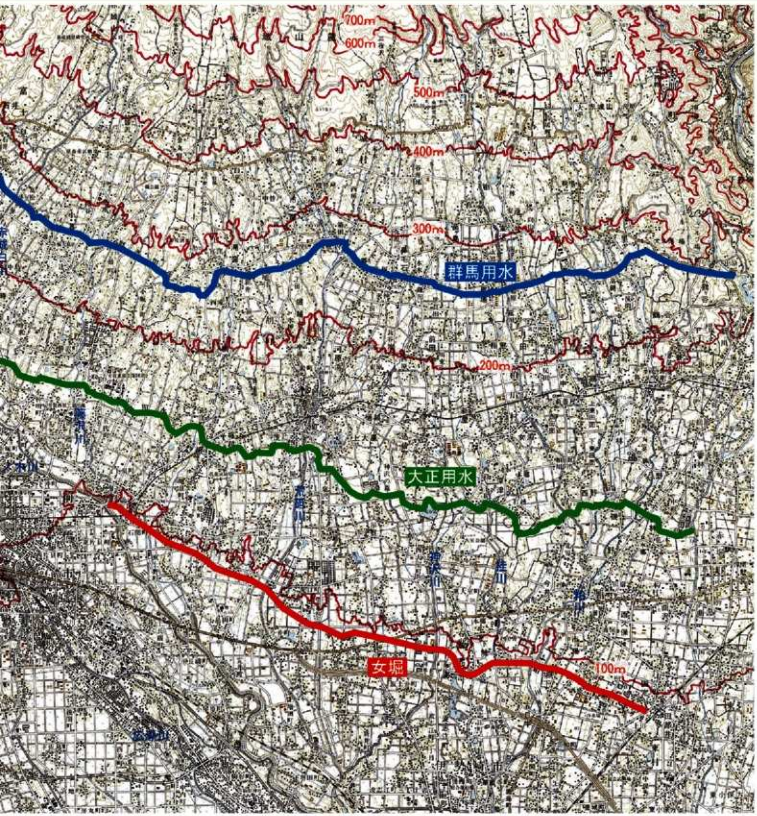
図18　大正用水　前橋市西大室町　西から
大正用水は大正７年（1918）に計画されましたが実現されず、昭和18年（1943）に再度計画が持ち上がり、昭和19年（1944）に着工され、昭和27年（1952）に完成しました。利根川坂東橋上流で取水し、伊勢崎市香林町で早川に合流する標高130mの等高線に沿った全長24kmの用水路です。

図19　女堀　前橋市飯土井町　西より
女堀は中世初頭に灌漑用水路として計画されましたが、未完成の用水路が痕跡として一段くぼんだ畑状の区画として連続して残されていました。しかし、昭和50年代の圃場整備によってその痕跡はほとんど消えてしまいました。発掘調査によって、前橋市上泉町の藤沢川と桃ノ木川の合流点付近から取水し、伊勢崎市国定町までの標高95mの等高線に沿った堀幅15～30m、深さ３～４m、全長12.75kmにおよぶ用水路であることが判明しました。

図20　赤城山南麓を横断する用水路　国土地理院　５万分１地形図・

女堀はその後長い間、歴史の中から忘れ去られました。しかしこの水路跡に着目して再利用も試みられました。江戸時代の寛政４年に干ばつがあり、そのときに女堀の

大正用水と群馬用水
Taishyo Irrigation Ditch And Gunma Irrigation Ditch



前橋・桐生及び足利を使用

再開発が計画されましたが、実現するには至りませんでした。また、大正用水が計画されたときも、女堀の利用が一つの案として浮上しました。

女堀と大正用水、さらに群馬用水が追加され、3本の水路が並行していることがわかります。このように女堀が計画されてから、この2つの水路は800年後に完成しました。

女堀をあるく
Walking Along Onnabori

このコースは、ＪＲ両毛線前橋駅を基点にして全長12.75㎞の女堀を歩くコースです。距離が長いので路線バスも利用しながら、季節の良い時に、赤城山南麓に残された巨大な記念物「中世のロマン・女堀」を体感するウオーキングにチャレンジしてください。

図21　⑧　空から見た二之宮地区女堀沼の史跡女堀　上空より昭和54年撮影

図22　⑫　赤堀花しょうぶ園地区の史跡女堀　伊勢崎市下触町：北から

図23　⑬　女堀を流れる桂川　伊勢崎市下触町：西から

【参考コース】

ＪＲ両毛線前橋駅下車⇒北口へ
シャトルバス
乗車時間12分/料金100円
上毛電鉄中央駅で乗車
乗車時間8分/料金230円
上毛電鉄上泉駅を下車
0.9km
①女堀取り入れ口（桃ノ木川）
↓ 0.7km
②石関町の女堀跡
↓ 0.9km
③大川屋堀町支店の西交差点
↓ 0.8km
④江木町の女堀跡
↓ 0.8km
⑤富田町の女堀跡
↓ 0.5km
⑥富田町の史跡女堀
↓ 1.7km
⑦総合運動公園南駐車場の女堀跡
↓ 0.8km
⑧二之宮地区女堀沼の史跡女堀
↓ 0.7km
⑨二之宮町の史跡女堀
↓ 0.7km
⑩飯土井町の史跡女堀
↓ 0.7km
⑪前工団地内の史跡女堀
↓ 0.7km
⑫東大室町・赤堀花しょうぶ園の史跡女堀
↓ 1.5km
⑬下触町の桂川が流れる女堀
↓ 3km
⑭国定町の独鈷田
0.7km
ＪＲ両毛線国定駅
乗車時間20分/料金330円
ＪＲ両毛線前橋駅

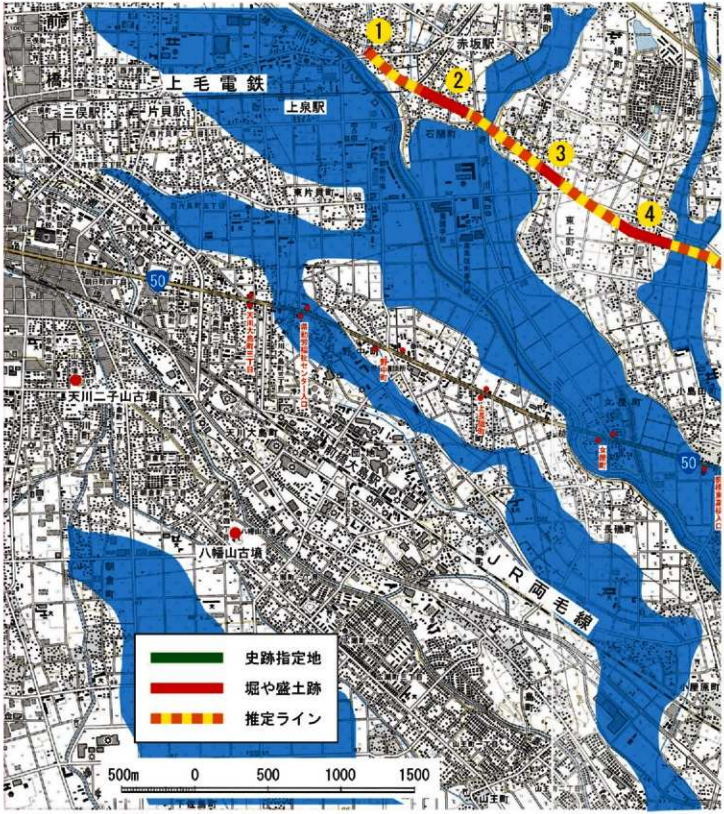


図24　女堀ウオーキングマップ　国土地理院　2万5千分1地形図・前橋・大胡を使用

図25　①　女堀の取水点（桃ノ木川）
前橋市上泉町：南から

図26　②　上毛電鉄の東に残る女堀
前橋市石関町：西から

図27　⑥　富田地区の史跡女堀
前橋市富田町720-1：西から

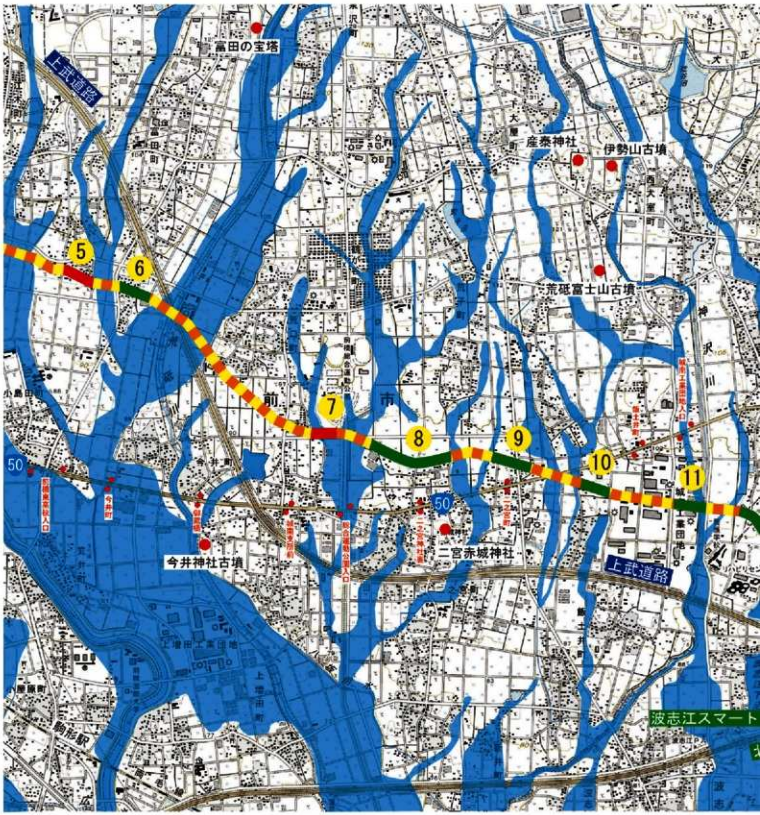


図28　⑧二之宮地区女堀沼の史跡女堀
前橋市二之宮町292：北西から

図29　⑨二之宮地区の史跡女堀
前橋市荒子町640-1：北西から

図30　①前工団地区の史跡女堀
前橋市東大室町164-2：東から

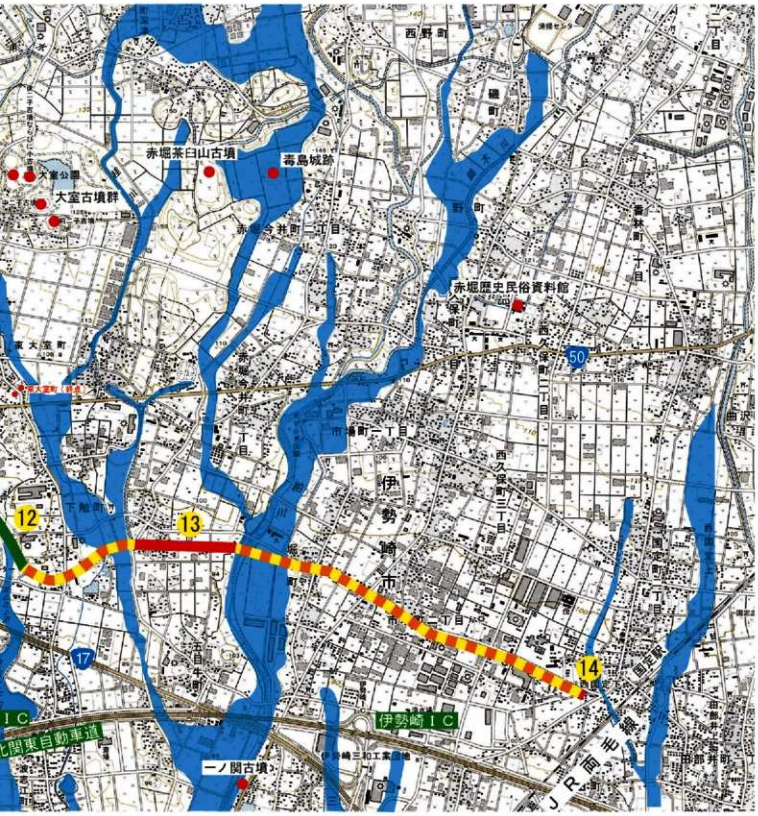


図31　⑫赤堀花しょうぶ園の史跡女堀
伊勢崎市下触町：北から

図32　⑬桂川と粕川の合流点
伊勢崎市下触町：南から

図33　⑭女堀終末地点の独鈷田
伊勢崎市国定町：南から

女堀をもっと知るために

For Studying More About Onnabori

元号	西暦	上野国の動き		中央の動き
万寿2	1025	東国で疫病流行		
長元3	1030	上野国交代実録帳作成される		
応徳3	1086			白河上皇院政始まる
嘉保2	1095	上野国亡弊のため1カ年の調庸雑物を免除		
天仁1	1108	浅間山大爆発（浅間Bテフラ）	女堀の開削	
天永2	1111	藤原成綱、相撲節会の参加		
永久2	1114	藤原家綱、雑物押取により上野国司より訴えられる		
元永2	1119	関白藤原忠実家の上野国荘園股立計画、院の反対で停止		
大治3	1128	浅間山大爆発（浅間粕川テフラ）		
大治4	1129	上野国司、火山灰降下によって貢納免除を申請		女堀の開削
大治5	1130	これ以降、淵名荘が成立する		仁和寺法金剛院建立される
天承1	1131	高山御厨成立		
久寿3	1156	藤田御厨成立		保元の乱
保元2	1157	金剛心院領新田荘成立する		
保元3	1158	藤原家綱、相撲節会の参加		平治の乱
長寛2	1162	この頃、那波郡に玉村御厨、勢多郡に青柳御厨が成立		
仁安3	1168	源義重、新田荘の「空閑の郷々」を頼王御前とその母に譲与		
承安2	1173	新田義重、藤田御厨司と争う		
治承4	1180			治承・寿永の乱始まる
養和1	1181	足利忠綱、野木宮合戦に敗れ敗走		
建久1	1192			源頼朝、征夷大将軍となる

女堀年表　The Chronological Table Of Onnabori

参考文献

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1984『女堀-中世初期・農業用水址の発掘調査-』

平凡社　1989『よみがえる中世5　浅間火山灰と中世の東国』

服部英雄　1989「東国の灌漑用水　-巨大な記念物、女堀-」『古代史復元10　古代から中世へ』

飯島義雄　2001「未完の灌漑用水遺構・女堀の取水予定地の検討」（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要19

楊澤重昭　2004「女堀の受益地域を考える-その歴史地理学的考察-」『ぐんま史料研究』第22号

かみつけの里博物館　2004『1108浅間山噴火-中世への胎動-』

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2005『群馬の遺跡7　中世～近代』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2007『石関西田Ⅱ遺跡』

前橋市教育委員会・高崎市教育委員会2009『前橋・高崎連携事業　東国千年の都　女堀開削・貨幣流築戦』

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2009「女堀を歩こう」『遺跡に学ぶ　第33冊』

能登　健　2010「女堀の発掘調査　その後-女堀研究のための今後の分析視点を整理する-」『近藤義雄先生卒寿記念論集』

伊勢崎市教育委員会　2015　女堀パンフレット

伊勢崎市教育委員会　2015『史跡女堀-未完成の大規模灌漑用水路「女堀」の発掘調査-』

飯島義雄　2016『女堀』みやま文庫220

写真提供

伊勢崎市教育委員会
図2・10・22・31

群馬県教育委員会
図1・4－9・21

小諸市教育委員会
図12

法金剛院
図16

赤城山南麓の中世

Medieval Period In The Southern Foothills Of Mt.Akagi

史跡　女　堀

A National Historical Site　Onnabori

令和4年12月23日発行　第6刷

発行：前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853　群馬県前橋市総社町三丁目11-4

電話027-280-6511

Eメール　bunkazai@city.maebashi.gunma.jp